

平成25年度 第3回中央区地域福祉計画推進協議会要旨

【1】開 催

- 1 会 議 名：平成25年度第3回中央区地域福祉計画推進協議会
- 2 日 時：平成25年12月17日（火） 午前10時00分～午後12時00分
- 3 場 所：中央保健福祉センター 大会議室（きぼーる11階）
- 4 出 席 者：委員29名中28名出席
欠席 1名
事務局 11名
傍聴人 0人

【2】次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 中央区長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) 各分科会の協議内容について・・・資料（P3～P10）
 - (2) 地区で選択する重点項目の取組状況について
～各地区から、選択した重点項目とその活動事例を報告～
- 5 連絡事項
 - (1) その他
- 6 閉 会

【3】議事の要旨及び発言要旨

協議（1）各分科会の協議内容について

（事務局）

12月4日から6日にかけて、すべての分科会が開催されました。

新しく選任されました各リーダーから、第1回分科会の報告をお願いいたします。

（委員）

第1分科会です。資料3ページをご覧ください。

昨年度の分科会で作成した取組み項目のチェックシートですが、これは目標値を設定したり、他地域と比較したりするためのものではなく、各地区部会が地域福祉計画に対しての経年での進捗状況を把握し、見直しを図る際の参考として利用するものです。

地域の中で重要視している項目はそれぞれ異なります。優先度を記入する欄を利用すれば、重要な項目や比較的優先度が低い項目を分けて評価することができます。

チェックシートには入っていませんが、地域で重要視している項目を独自に取り入れ、オリジナルシートを作ってもらってもかまいません。

住民の意見の取り入れや取組み内容の充実などの質的評価は、「アンケートの実施」等の独自項目を、地区部会ごとに追加してもらうことで対応できます。

第2期中央区地域福祉計画の評価に向けて、最初からこういったチェックシートを用いて進捗状況を整理していれば、後々応用できるため便利です。

推進協にて発表した際に、取組み状況が点数化されることに対してポジティブな反応ばかりではありませんでした。チェックシートによる評価は公的な場でも使うのか、地区部会内での自己評価としてのみ使うのか検討したほうがよいのではないか、という意見もありました。項目が多すぎるので、第1分科会に関するものだけに絞ったほうがよい、との意見もありました。

事務局からは、まだ案の段階であり、チェックシートなどの形にはなっていないが、第4分科会でも自己評価に関する同様の提案が出ています。こちらの評価は3段階だが、第4分科会は5段階の評価です。今後、第1・4分科会での協議について検討してもよいのではないか、という提案もありました。

(委員)

第2分科会です。資料5ページをご覧ください。

前年度は、地域とボランティアセンターの住み分けについて、ボランティアの内容と問い合わせ先を一覧表にしました。

今回、協議の中心となったのが、ボランティア拠点の確保です。そこで、第2分科会内で実際にボランティアのコーディネートを行っている地域に、実情をお話いただきました。

ある地区部会の活動では、携帯電話によるボランティアコーディネートを行っており、個人の電話へ連絡をしなければならぬため、「依頼しにくい」という課題があります。

拠点を持つことにより、人が集まり、コーディネートが円滑に進みやすくなると考えられるため、やはり必要である、という意見もありました。

拠点として公民館、あんしんケアセンター、社会福祉法人施設が利用できないか、という意見もありました。

ボランティアのコーディネートに関しては、地区部会は世帯数や地域の特性に合わせた仕組みが必要であると思われます。そこで、第2分科会でボランティアコーディネートを行っている委員に話を聞きました。コーディネーターが地域に存在し、年間68件のコーディネートを行っているということでした。そういう方が地域にいて、活躍していただくことが重要であると思います。

今現在実際に活動されている地区での、ボランティアの実情について情報を集め、拠点のあり方について検討をしていく、ということになりました。

(委員)

第3分科会です。資料7ページをご覧ください。

重点項目16は、福祉とボランティアの講座を各1回ずつ、年2回を目標値とすることを前年度までに決定しました。

今までは、福祉・ボランティア講座としてふさわしくないものも回数として数えていたため、福祉・ボランティア講座の例を示したほうがよいという意見もでました。

重点項目20は、目標達成したといえます。福祉マップは、今年度の春先に完成しました。情報誌も各地区部会で年2回発行されています。

福祉マップは、子ども100番の家や民生委員の家などを書き込んで、各地区部会独自のものを作成するなど、活用方法は地区部会にお任せします。

重点項目23は、昨年、市ボランティアセンターが各学校にアンケートをとり、回答後に14校を訪ね、今後の福祉教育の実施に向け、ヒアリングを行いました。その結果、校長や担当教員の福祉教育に対する考えによって、学校の取組みも大きく左右されることが

わかりました。また、転勤などで教員が変わったときも、引継ぎが上手くできないと、福祉教育への取り組み方が大きく変化するようです。

福祉教育未実施の学校からは、「何をしてよいのかがわからない」という意見もありました。そこで、福祉教育の手引きを作成することになりました。

(委員)

第4分科会です。資料9ページをご覧ください。

防犯パトロールについて重点的に検討しました。

パトロールを活発に行っている町内自治会では、会長が積極的に動いてリーダーシップを取っており、サポートを行う周囲の人との連携も取れている、という意見が出ました。

パトロールを行っている大半は旧住民であり、新住民の関心は薄いです。今後はどう新住民を取り込むかが課題です。対策として、子ども会の活動の支援などがあげられます。

組織的にパトロールを実施できない地域では、個人で買い物や散歩のついでにパトロールを行う防犯ウォーキングを拡充する方法もあります。

問題点は、町内自治会の役員が1年交代のため、活動が定着しにくいこと、担い手に高齢者が多く、夜間のパトロールが難しいこと、活動メンバーが固定化する傾向にあることなどです。

地域によって活動にばらつきがあるため、継続的に活動を行うことの困難さについての意見が今回は多くあげられました。次回は、活発にパトロールを行っている町内自治会を招いてヒアリングを行う予定です。

(委員長)

ご質問等ありますでしょうか。

特に、各分科会の今後の方針、活動内容などについてのご意見があればお願いします。

(委員)

私どもの地区部会は、来年度から見守り活動を実施する予定で、アンケートを実施しました。3,540世帯のうち約2,050世帯、58%ほど回収が終わっています。そのうち、見守り支援を受けたいという人は270人、協力をしたいという人は420人いらっしゃいます。今後も分析を続け、今年度中に体制を整えたいと思っています。

また、毎月会議を行い、委員会毎に活動を報告し、情報交換を行っています。その中で、それぞれの活動に協力をお願いすることもあります。

年数回しか会議をしない場合、役員同士の関係が深まることは難しいです。活動内容に関係なく、何かしら顔を合わせる機会を多く設けることが重要であると実感しています。

分科会への意見というより、参考にさせていただければと思います。

(委員)

第2分科会への質問です。

様々な地区でのボランティア活動を紹介されていますが、規模や状況などに応じた共通システムはあるのでしょうか。

(委員)

まだありません。ですが、分科会の中で、共通システムの必要性についての意見は出ました。次回からは、実際のボランティア活動の実践例を参考に、システムを構築していく予定です。

(委員)

拠点を設置したほうがよいのでは、という意見があったということですが、地域によって違ってくると思います、どのようなところを考えているのでしょうか。

(委員)

まず、公民館が候補としてあがりました。

また、学校、あんしんケアセンター、社会福祉法人なども出ました。

(委員)

実際に相談員がいる地域で、携帯電話が使われているとありましたが、費用の問題等もあるとおもいます。拠点を整備した場合、電話機やFAXの設置などは決めていますでしょうか。

(委員)

活動を行う上で、電話機などは必要になってくると思います。しかし、予算が出る物品ではありません。

拠点が決まれば、自ずと必要となる物品も決まってくると思います。

(委員)

第3分科会への意見です。

福祉は教育ほどには身近に感じられない、という面がまだまだあると思います。それは、福祉の原点となる部分が理解されていないためということが理由の1つかと思います。そのため、福祉学習は必須であると考えています。

住民の関心が得られるようなテーマの設定が重要になってきますが、それこそが非常に難しいと、長年福祉と関わるなかで感じています。「福祉とは」、「ボランティアとは」といったテーマを掲げた場合、私どもの地区部会では、大学教員などに講師をお願いすることがありましたが、参加者には取っつきにくいという印象を与えてしまうようです。

福祉やボランティア活動が身近に感じられるようなテーマの具体的提案をお願いします。

(委員)

第2分科会の前年度までの資料に、私どもの地区部会を見学したい、という意見が出ていました。

地区の拠点は、月1、000人の来客を目指して運営しており、現在900人を越えるぐらいです。高齢者を対象に、地域の大学の教員や有識者による講話や運動、雑談などを行う集まりを開催したりしています。

実際に見ていただければ、地域が頑張れば行政も協力してくれること、こういった活動が広まって福祉の時代になってきていることなど実感していただけたと思います。運営方法や人の集め方なども参考になるかと思います。お助け隊、高齢者サロン、散歩クラブ、子どもクラブなど、地区部会の各委員が競争し合って運営しています。

これらは拠点があるからこそできることだと思います。まず、拠点をどのように確保するか、ということが重要です。拠点があると人が集まりやすく、意見も活発に交換されます。

拠点は午前午後交代で計2人のボランティアが常駐しており、土日でも開いていますので、ぜひ見学にきてください。

(委員長)

他にご質問・ご意見がないようでしたら、次に移りたいと思いますが、よろしいですか。

[意見・質問等なし]

協議（２）地区で選択する重点項目の取組状況について

～各地区から、選択した重点項目とその活動事例を報告～

（委員）

みんなで創る中央区づくり事業の補助を受けて組織を立ち上げ、7月14日に第1回会議を開催しました。構成員は、地区部会、町内自治会、小中高校、保育園（所）、PTAなどの代表42名です。

目的は、要援護者に対する見守り・災害時の支援と、児童を犯罪や交通事故から守ることの2つです。

9月28日に、第2回会議を開き、アンケート調査を行うことが決定しました。アンケートの内容は、昨年先行してアンケート調査を実施した地区部会のものを参考に作成しました。

対象は、地区の町内自治会の会員です。町内自治会を通じて配布・回収をいただいています。

10月から配布を始め、11月末に回収しました。配布総数は5,656枚、回収総数は3,970枚、総回収率は71.2%です。町内自治会によっては回収率が80%を越えるところもありました。

集計は、地域の大学生が授業の一環として行っています。1月ごろに結果が出る予定で、それを目処にどのように見守り活動を行っていくかを検討します。

（委員）

私どもの地区部会では、見守り体制の構築のため、作業部会を立ち上げて、具体的な準備を進めてきました。アンケート調査は10月から11月にかけて行いました。

平成23年度から見守り体制の構築というテーマの実現に向けて、講座や研修会を行ってきましたが、平成25年度によりやくアンケート調査を実施する運びとなりました。

調査対象は、地域の住民です。

配布総数は、1,750ほどです。

回収率は、戸建は60%を越えるぐらいですが、マンションは20～30%程度です。地区部会を立ち上げてから、2回ほど全所帯を対象にしたアンケート調査を行いました。当時の回収率が3割程度だったため、今回も2・3割を見込んでいました。

そのため、作業部会では、回収率をいかに3割以上にするかを議論し、アンケートを入れる封筒の表に「〇〇自治会の皆様」、「〇〇マンションの皆様」と記入し、アンケートが地区の大事な資料となるため、期日までに返答してほしい旨を文書にして同封するなど、工夫をしました。回覧等で調査を実施すると、回答せずに次の世帯へ回すケースが増えるのではないかと、という懸念があったため、作業部会・地区部会の協力していただき、各戸へ封筒をポストにポストしました。

回収方法は、配布した封筒での密封回収方式です。3自治会は、自治会役員経由で回収しました。1自治会を含む5団体は、マンション管理人のポストや専用の回収箱で回収しました。12団体は、あらかじめ同封してある切手貼り付け済の返信用封筒にて回収しました。

アンケート内容は、先行する地区部会の設問内容を参考に、8つの項目と自由記述を設けました。見守り体制に関係することに限らず、地域の状況を把握するために使用するという趣旨で実施しました。そのため、災害時の幼児の支援に関する悩みも寄せられました。

(委員)

情報伝達の方法と、回収の方法がとても良いと思います。私自身集合住宅で暮らしていますが、回覧では飛ばされてしまうため、そういった調査が行われていても、そのことを知ることができません。

直接ポストに入れていただくことで、必ず目に触れますし、回収も自治会の方が直接いらっしゃるだけでなく、返信用封筒という方法もあり、様々な方法が選択できるということが良いと思います。

(委員)

私どもの地区部会では、35町内会が8ブロックに分かれていますので、それぞれの理事と地区部会役員が集まって、見守り活動についての会議を開きました。地区部会が主導して地区連協と自主防災防犯の会の協働で活動を行うことになりました。町内会長全員を集めて、経緯を説明し、アンケート協力をお願いをしました。

アンケートは、二重にした封筒を町会長または班長が手渡しで配布し、封をして回収し、最終的には拠点に集まるようにしました。手渡しができない世帯のみポスティングにて配布しました。3,540世帯のうち約2,050世帯、58%ほど回収が終わっています。そのうち、見守り支援を受けたいという人は270人、協力をしたいという人は420人いらっしゃいます。回答を待ってほしい、という世帯もあるため、今年度中に地区部会の事務局にて精査を終え、体制を作り、来年度から実施していきたいと思っています。

(委員)

3地区部会の見守り体制構築についてのお話をお伺いしましたが、これで全地区部会が見守りについての活動を開始したという認識でよろしいでしょうか。

(事務局)

3地区だけでなく、10月に開催しました見守り活動勉強会で発表いただいた5地区でも開始しております。ただ、アンケート調査を行い、見守り活動を重点的に行っているのはこの3地区になります。

(委員長)

補足しますと、地区部会としてではない活動も含まれますが、4つほど既に開始している地区もあり、今年開始したのが今回発表いただいた3地区部会です。アンケート調査を行っていない地区もあります。進捗状況については、半分ほどの地区部会で既に開始しているといえると思います。

来年度以降は、未実施の地区にも補助金などを活用して開始していただければと思います。

地域福祉計画の一つであるこの見守り活動について、現在社協から各地区部会に対して、細かい進捗状況をヒアリングしているところです。第4回推進協にて報告があります。

(委員)

見守りについて、アンケート調査前は、見守り希望者は70人ほどだと思っていましたが、実際は270人もいらっしゃいました。高齢化は確実に進行しており、それに伴い生

活に不安を抱える高齢者も増えています。アンケート調査を適切に行うことで、見守り活動をよい方向に進めることができると思います。

(区長)

昨年度は、見守り体制の構築のため、4地区にみんなで創る中央区づくり事業の助成を利用いただきました。うち3地区がアンケート調査を行い、1地区は見守り隊を結成しました。

今年度も4地区が助成を利用いただきました。うち2地区がアンケート調査を行い、残り2地区はあんしんカードを作成しました。

(委員)

私どもの地区部会でも、昨年にアンケート調査を実施しました。現在、見守り支援者が足りないことが問題となっています。支援者の責任が大きいためかと思われます。他の地区での見守り体制支援者の集め方をお聞かせ願います。

(委員)

私どもの地区部会では、担い手のいない地域では見守り活動は実施しません。緊急通報装置や安心電話の利用条件を緩和してもらい、加入してもらおうという方法しかないと思います。

(委員)

アンケート調査のやり方次第で、支援者の人数も変わってくると思います。

(委員長)

私どもの地区部会では、町内自治会を通して、役員から支援者を出していただくようにしています。現在、そういった形で集まった支援者が350人ほどいます。

その後、アンケート調査を行い、見守り支援者を募ったところ、150人ほど集まり、総員で500人ほど確保することができました。

(委員長)

他にご質問・ご意見がないようでしたら、次に移りたいと思いますが、よろしいですか。

[意見・質問等なし]

連絡(1) その他

(事務局)

次回、第4回中央区推進協の日程ですが、年度当初にご案内しましたスケジュールですと、2月下旬～3月が予定されています。事務局としましては、3月11日(火)午前、13日(木)午前、14日(金)午前を考えておりますが、いかがでしょうか。

[調整]

(委員長)

3月14日(金)午前に決定しました。

その他、事務局から連絡、また委員の皆様からご意見ご質問等ありますでしょうか。

[意見・質問等なし]

(事務局)

それでは、以上を持ちまして、第3回中央区地域福祉計画推進協議会を終了します。

以 上